

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年十一月度 入選句（投稿総数三千七十六句・一般投句数五百六十三句）

特選

奉納の文字は黒々今年酒 大垣市 森 茂寿

神社の参道には奉納の酒樽ならぶ。とりわけ明治神宮には全国から、日本酒だけでなくワインの樽もかかげられている。いろいろな難儀を越え、今年も絞りあがった酒。奉納の酒樽の黒々とした銘の太い字は、喜びと感謝、さらに自然災害に加わへこのコロナ禍の今、新しい時への祈りが込められ、一段とひかり輝く。

きのふよりけふのさびしい曼珠沙華 愛知県西尾市 金子 恵美

今年の曼珠沙華の開花は、例年より十日ほど遅かった。あの赤一色の、どこにでも咲く花は、季節の節目を誰にも感じさせる。作者は、この花をみて、昨日より今日がさびしいと感じる。まだかまだかと待っていた花がようやく咲いた安堵。その待つ思いが終わってしまったことに、さびしさを感じているのだろうか。

竹燃やす火が生き生きと冬隣 長野県下伊那郡 長沼 まさし

冬にむけての家廻りの用意か。竹藪の整理や竹垣の修繕でできた、不要の竹を燃やしているのだろう。青竹も交じっているのか、節があるため、ときどきぽんぽんと爆ぜる。その竹の燃える炎の様子を、いきいきと、と感じる作者。寒くなるにしたがって火が恋しい。冬隣の季語も良い。

秀逸

朝日受け光る新米香り立つ	大垣市	米山 春江
風入れし母なき部屋に菊香る	大垣市	早筈 千恵子
名月が天守かかへて浮かびをり	大垣市	谷 睦月
芭蕉揺れ鉄心門の鉾の錆	大垣市	山田 賀子
輪中村日暮すんと石露の花	大垣市	佐藤 すみ子
橋いくつ越えて紅葉のむすびの地	静岡県浜松市	岩崎 陽子
尾を振りてモズ一声に庭を裂く	大垣市	西脇 克明
合戦の場につかつかと菊師入る	大垣市	村田 通夫
小春日やシヤボンの香る犬とハグ	安八郡輪之内町	野村 照子
老眼鏡拭いて板書をする夜学	広島県福山市	中常かつたろー。

入選

コスモスのそこだけ揺れるかくれんぼ	兵庫県芦屋市	田原	たまき
新米は五感満たして急ぐ箸	大垣市	鹿野	三地代
鳥渡り川面静かに風わたる	大垣市	香田	末代
岐阜城の背を上りつつ十五夜よ	大垣市	吉田	しず子
首塚の井戸にかすかな虫の声	不破郡垂井町	宮代	一草
山を背に聳ゆるクレール霧襖	福井県敦賀市	山田	美千代
日々増ゆる幼のことば小鳥来る	養老郡養老町	田中	紫香
いわし雲青き地球を泳ぎけり	不破郡垂井町	竹嶋	富美子
木犀の香も連れ帰る寺詣	海津市	横井	美圭
地藏堂今日は野菊が生けられし	大垣市	三輪	葉加

入選

もうそこに日暮来てをり石露の花	大垣市	岡田	あや子
手に受けし落葉かすかに日の匂ひ	大垣市	福田	みゑ
よく話す木真っ先に紅葉す	大垣市	川瀬	正一
落鮎や伊吹の嶺のくつきりと	大垣市	平野	きぬよ
稲雀遠く飛び立つ伊吹晴れ	大垣市	辻	シゲ
静かさを動かしているすすきの穂	大垣市	今津	絹代
名月や従者のごとき火星あり	大垣市	杉山	はるみ
西方は薔薇窓のごと秋夕焼	愛知県尾張旭市	小野	薫
箒目の幾何学模様秋澄めり	神奈川県横浜市	龍野	ひろし

選者吟

一村に一寺しぐるる輪中かな

さち子